

DOGAKUSHAS

Neues
Deutsch-Japanisches
Wörterbuch

同学社版

新修ドイツ語辞典

矢儀万喜多・西田越郎・土屋明人
根本道也・有村隆広・恒吉良隆
共編

同 学 社



校印廃止

同学社版・新修ドイツ語辞典

定価 3,200 円

DOGAKUSHAS
NEUES
DEUTSCH-JAPANISCHES
WÖRTERBUCH

© 1972 年 3 月 20 日 1 版 発 行
1980 年 2 月 1 日 10 版 発 行
1987 年 2 月 1 日 17 版 発 行

編集執筆者 矢儀万喜多 西田越郎
土屋明人 根本道也
有村隆広 恒吉良隆

発行者 株式会社 同 学 社
代表者 近藤久寿治

印刷所 研究社印刷株式会社
埼玉県新座市野火止 7-14-8

発行所 株式会社 同学社 〒112
電話代表 東京(03)816-7011 東京都文京区水道1-10-7
振替 東京 5-166920 番

ISBN 4-8102-0001-9

(製本・鈴木製本所)

(落丁・乱丁本は直接同学社にて送料当方負担にてお取替えいたします)

ま え が き

この辞典は、ドイツ語教育の実際面にたずさわっている者たちが、つね日ごろ新しい教育制度の中での学習の効率化について話し合っているうちに、新しい形態のドイツ語辞典の必要を痛感し、その編纂に着手したものであります。ここでいわれる新しい形態のドイツ語辞典とは、初めてドイツ語を学ぶ学生諸君にも、社会人にも、求める語がすぐに見出され——これの工夫が今までとかく軽視されていました——、しかもそれがわかりやすく解明され、またそれが直ちに活用され得るように準備されている辞典、すなわち誰にでも使用しやすくそれでいて内容の充実した辞典でなければなりません。私どもはこの大きな目標に向かって長い年月にわたってお互いの教室における日常体験を語り合い、その反省、問題点、アイデアをぶつけ合って討議を重ね、その結果しだいに編纂の方向が確立され、7年を経ついにこのような形態に到達したものであります。

この辞典では現代語を中心に、最も頻繁に用いられている語、約 50,000 語を選んで見出し語としました。ここで編纂上、特に留意した点をいくつか挙げてご参考にご供したいと思います。

1. 全般的に平易・明解な取り扱い ドイツ語とはかく難解・複雑・堅苦しさという印象をぬくい切れないうらみがありますが、この辞典ではこのような点を一掃して、初学者にとってもドイツ語が近づき易く、親しみやすいものになりうるよう鋭意工夫をこらしました。
2. 見出し語の選択——現代ドイツ語への志向 本書では生きた現代ドイツ語とその用例の選択に特に意を用いました。その点でドイツ本国において定着しつつある現代語、外来語の採録に特に留意し、さらに在来のドイツ語に新しく加わった意味・用法にも積極的な姿勢で取り組み、充実した現代ドイツ語辞典であることを期しました。
3. 発音の表記 ほとんどすべての見出し語に仮名と音標文字との二本立てで発音を表記し、複合語にいたるまでことごとくアクセントを示す仮名表記を付しました。仮名表記は使用上幾多の問題をかかえていますが、外国語を身近かなものにするひとつの有力な手段であることは明らかであり、今後一層の研究がまたれるものと思われます。
4. 訳語の取り扱い 訳語はなるべく繁瑣を避けてその概念と機能とを明快に示しました。そのためにはたんに単語として訳語をつけるというのではなく、その語が実際に文中で活用される場合の語の機能を明示するようにつとめました。たとえば名詞・動詞などの変化形、名詞・代名詞の格の変化、前置詞の格支配などには徹底した格の表示を行ない、例句・例文を豊富にして文章の中での言葉の習得に重点を置きました。これは基本語にのみとどまらず、すべての複合語にまでこの方針をひろげ用いました。この結果、従来の大辞典の域にまで及んだ箇所もあり、活用辞典としての性格をも帯びることになりましたことは、この辞典の大きな特徴のひとつであらうと考えられます。
5. 最重要語・重要語の表示 初学者の学習の便をはかるため、見出し語の中で、使用頻度の高い語に最重要語＊(約 1,500 語)、重要語＊(約 4,000 語)の記号を付し、これらの語の変化形・格支配は特に詳細に表示し、現代的な例句・例文によって実際の用法を示すことに特に意を用いました。
6. 辞典の総合的活用 本書を使用される場合、学習の便宜を考慮して独和辞典としての機能だけではなく、和独の部、日常会話、文法表、不規則動詞表を付録としてつけ加え、総合的活用役に役立たせました。それぞれ対照させて利用して頂きたいと思います。

さてこの辞典の編纂にあたってはなはだ幸いでありましたことは、編集・執筆の段階において、ドイツ本国における別記参考文献の表にも見出だされるような新しいドイツ語辞典が相次いで刊行されたことであります。これらの辞典を検討し研究することによって私どもの所期の目標に大きく前進し得たことはこの上もない喜びでありました。私どもはまたわが国の優れたドイツ語辞典に負うところ多大であることを併せ記して、内外の先業に対して深い感謝の意を表したいと存じます。

なお執筆の段階で税田秀紀、提山淑郎、空閑輝義、志山博訪、梶間博、米沢充、Ingeborg Herbst の各位になみなみなならぬご協力を頂きました。また全体にわたって慣用句・ことわざに造詣の深い山川丈平氏をはじめ浜川祥枝、宮川政、伊東泰治、稲元萌、神品友子、河野収氏の方々のご協力を頂き各分野にわたって重要な示唆を与えられましたことはまことに有益でありました。また最後の段階で渡辺勝、桜井春隆、新保弼彬の三氏にご協力を頂きましたことはなはだ幸いでございました。ここにこれらの諸氏にあわせて厚くお礼を申し上げます。

終りにこの意欲的な仕事に取組んで終始刊行推進の労をとられた株式会社同学社々長近藤久寿治氏並びに同社の方々、また製作面を担当され、ひとかたならぬご尽力を頂きました研究社印刷株式会社に対して深い謝意を表したいと思います。

このように多くの人々のご協力によって生まれましたこの辞典が、さらに広くご使用頂いた方々からのご教示とご批判によって一層充実したものになっていくよう願っております。

1972年1月

編集執筆者

第7版発行（「理工学用語」増補）にあたって

さてこのたび、各方面からのご要望にこたえまして、最新の科学技術に関する基礎的な用語集を「理工学用語」として増補する運びとなりました。自然科学関係の方々はもとより、広く一般の学習者にも活用されますならば、まことに幸いに存じます。なお、この増補にあたりましては、その方面の専門にお詳しい同志社大学工学部教授河野収氏に格別のご援助を頂きました。ここに記して、心からの謝意を表します。

1977年1月

編集執筆者

第10版発行（「シノニム（同意語）」増補）にあたって

このたび各方面からのご要望に沿うべく、「シノニム（同意語）」の解説頁を増補いたしました。用法上の相違が分りにくいと思われる基本的な語彙について、その語法やニュアンスの違いなどが示されていますので、学習者はこれを利用することによって更に語学力の向上に努めていただきたいと思います。なお、この増補にあたっては東海大学教授真鍋良一・東京工業大学教授平井正両氏のご協力をいただきました。厚くお礼を申し上げます。

1980年1月

編集執筆者

おもな参考文献

- Agricola, E.: Wörter und Wendungen, 1968
Cassel's German & English Dictionary, 1968
Duden: Bd. 1, Rechtschreibung, 1961
„ Bd. 2, Stilwörterbuch, 1963, 1971
„ Bd. 3, Bildwörterbuch, 1958
„ Bd. 6, Aussprachewörterbuch, 1962
„ Bd. 10, Bedeutungswörterbuch, 1970
Friederich, W.: Moderne deutsche Idiomatik, 1966
Gisela Wohlgemuth-Berglund: Wort für Wort, 1969
Häfner, K. und Plickat H.-H.: Grundwissen Kleines deutsches Wörterbuch, 1970
Herders Sprachbuch, 1964
Klappenbach, R. und Steinitz, W.: Wörterbuch der deutschen Gegenwartssprache Bd. 1, 2, 3. 1964-70
Köster, R.: Ullstein Lexikon der deutschen Sprache, 1969
Küpper, H.: Wörterbuch der deutschen Umgangssprache 6 Bde. 1963-70
Mackensen, L.: Deutsches Wörterbuch, 1970
Messinger, H. und Rüdenberg, W.: Langenscheidts Handwörterbuch Englisch, 1968
Der Neue Brockhaus, 1958-64
Oehler, H.: Grundwortschatz Deutsch, 1972
Paul, H.: Deutsches Wörterbuch, 1966
Pekrun, R.: Das deutsche Wort, 1967
The Pocket Oxford German Dictionary, 1962
rororo: Wörterbuch Deutsch-Englisch, 1967
Sanders, D.: Wörterbuch der Deutschen Sprache 3 Bde. 1876
Sanders, D.: Ergänzungs-Wörterbuch der deutschen Sprache, 1885
Siebs: Deutsche Aussprache, 1969
Der Sprach-Brockhaus, 1966
Taylor-Gottschalk: A German-English dictionary of idioms, 1960
Wahrig, G.: Deutsches Wörterbuch, 1968
Wehrle-Eggers: Deutscher Wortschatz, 1968
Wildhagen-Héraucourt: Englisch-Deutsches Deutsch-Englisches Wörterbuch in zwei Bänden Bd. II, 1953, 1972
Sagara: Großes deutsch-japanisches Wörterbuch, 1958
ドイツ語教育研究会編: ドイツ語教育の基本的諸問題, 1971

この辞典の使い方

I 見出し語

- ① 文字 太字(ゴシック)の立体活字を用い、動詞以外の複合語には、**≡**を用いてその主要な接合点を示した。この場合、同じ語に基づいてできた複合語が2語以上並ぶときは、2語目からはその基本語の部分をつづの活字とした。ただし重要語はゴシックで示した。

例: **Sand-bank**
Sand≡boden

- ② 配列 すべて ABC 順に配列した。ä, ö, ü および ß はそれぞれ a, o, u および ss に準じてその直後に、同じつづりの語は、原則として小文字を先に大文字を後に並べた。
- ③ 重要語 最も重要と思われる約 1,500 語の前に * を、次いで重要と思われる約 4,000 語の前に * を付した。

II 発音 ⇒ 発音表 (xi 頁)

- ① 仮名表記 略語の一部分を除いて、全部の見出し語に仮名で発音を示した。原則として片仮名を用いたが、[f] 音と [ʃ] 音だけ平仮名を用いた。また発音の切れ目は・で示し、第1アクセントを明示するために太字を使った。

例: **nachdenklich** [ナ-ハ・デンクリヒ ná:x-dɛŋkliç]
wieder|beleben [ダイ-ダ-ベレ-ベン ví:dər-balè:bən]
Glück≡wunsch [グリュック・ヴァンシュ glʏk-vunʃ]

- ② 音標文字 複合語以外は(動詞は複合語も)ほとんど全部の見出し語に、仮名表記の次に音標文字を記した。音標文字の表記法は主として Duden: „Aussprachewörterbuch“ を参考にし、新語は現代の発音に従い、また発音の切れ目を明らかにするために適宜ハイフンはさんだ。

例: **Nachmittag** [ナ-ハ・ミッターク ná:x-mítta:k]
verschnüren [ふエ-シュニ-ユレン fɛr-ʃný:rən]

- ③ アクセント 仮名表記で太字で示した第1アクセントは、音標文字では母音の上に [ˈ] を付した。ただし分離動詞およびその現在分詞形にだけは [˘] で第2アクセントを示した。

例: **über|lesen** [ユ-バ-ア-レ-ゼン ý:bər-lè:zən]

III 名詞

- ① 性 名詞は複合名詞をも含めて、すべての名詞の性を、**○**, **□**, **⊕** で示した。⇒ 付録・文法表 IV, 4.

- ② 変化形 ⇒ 付録・文法表 IV, 1., 2., 3.

① **○**, **□**, **⊕** の次に **単数 2 格/複数 1 格** の形で表示した。- は見出し語, .. は見出し語の一部分を示す。

② 変化形に別の形がある場合には、(または…), (まれに…) で示した。

③ 複数の変化が特にはげしい場合には、複数 1 格の次にその発音を仮名で [] の中に示した。

④ 単数形のみが用いられる語は **単数 2 格/** で示し、複数形のみが用いられるものは **⊕** で示した。

⑤ 語の意味によって、『単数形だけで用いられるもの』、『複数形だけで用いられるもの』は、① **⊕** の

み】…，②【**覆**て】…，③【**ふつう** **覆**】…などの形で示した。

例：Aufsatz [] 男 -es/..sätze [..ゼツツェ]

Einnahme [] 因 -/-n ①【**圍**のみ】…

Ehrgeiz [] 男 -es/

Nebenkosten [] **覆**

Wort [] **因** -es(まれに-s)/Wörter [ヴェルター] (または Worte)

- ③ 形容詞・分詞から転化した名詞 男・女 または **因** で性を示し，その次に『形容詞的变化』と記した。見出し語の変化する部分は斜体活字 …*e[r]*，…*e[s]* で示し，重要語には () 内に变化の例を記した。⇒ 付録・文法表 V, 3.

例：Abgesandte[r] [アップ・ゲザンテ(ター) áp-gəzanta[r]] 男・女 『形容詞的变化』(例：**因** I 格 der Abgesandte, ein Abgesandter)

- ④ 固有名詞 すべての固有名詞に，性と変化形を示した。男性・女性の地名・国名・山河名などには特に定冠詞をつけた例を示した。⇒ 付録・文法表 IV, 3.

例：Alpen [] **覆**《山名》die Alpen アルプス山脈。

Neckar [] 男 -s/《河名》der Neckar ネッカー河。

Schweiz [] 因 -/《国名》die Schweiz スイス。

IV 形容詞・副詞 ⇒ 付録・文法表 V, VI

- ① 比較変化 比較級・最上級で語形の変るものは，発音の次に(比較級，最上級)で示した。

例：gut [] (besser, best)

hoch [] (höher, höchst)

nah[e] [] (näher, nächst)

- ② 形と副 形容詞・分詞はたいいていそのままの形で副詞としても用いられるが，特に重要なもの以外は副の表示は省略した。形の項目の中で副詞として用いられている例句・例文も少なくない。

V 動 詞

- ① 種別 自動詞，他動詞，再帰動詞，非人称動詞をそれぞれ **因**，**覆**，**再**，**非人称** で示した。同一の語で2種以上の用法がある場合には，I **因** …，II **覆** …，III **再** … のように分類した。また簡単な語は支障のない限り **因** (h)・**覆**，**覆**・**再** などのように併記して示した。

- ② 変化形 ⇒ 付録・文法表 IX

① 不規則(強変化・混合変化)動詞は見出し語の右肩に * を，また同一語で規則(弱変化)動詞としても用いられるものには，(*) をつけて示した。語の意味によって変化形が変る場合には，①『強変化』… ②『弱変化』… と分類した。

② 不規則動詞で重要な語には，単一動詞・複合動詞ともに発音の次に(過去，過去分詞)を示した。規則動詞でも ..ieren, ..eien に終る重要な語，その他特に重要な語には，過去，過去分詞を示した。

③ 不規則動詞で重要な語には，単一動詞・複合動詞ともに(過去，過去分詞)の次に単数2人称・3人称の現在変化形を示した。

④ 分離動詞は分離前つづりと基本動詞とのあいだに分離線 | を入れて示した。同じつづりで分離動詞としての用法と非分離動詞としての用法と両方がある場合は別の見出し語としてあげ，発音の次に特に『分離』，『非分離』と記した。

⑤ 自動詞には **因** の次に，その自動詞が支配する完了の助動詞を (h)，(s)，(h, s)，(s, h) の形で付記した。同一語で haben を支配する場合と，sein を支配する場合とあるものは，使用頻度の

高い方を先に記した。語の意味によって変る場合には ① (h) … ② (s) … のように記した。⇒ 付録・文法表 IX, 1. および 3.

- ㊦ 再帰動詞は ㊦ **sich**⁴ の形で示した。～ は見出し語を, **sich** の右肩の数字は再帰代名詞の格を示す。
- ① 非人称動詞は ㊦ **非人称** として, その用例を示し, ふつうの動詞の非人称的用法についても ② ㊦ **㊦** として … という形でその用例をあげた。
- ㊦ 現在分詞・過去分詞で形容詞としてもよく用いられるものは不定形の項で, **IV wachsend** ㊦ **㊦** …, **V gewachsen** ㊦ **㊦** … という形で示した。その中で重要なものは更に見出し語としてかかげ, 詳説した。
- ① 不定形がそのまま名詞として用いられる重要なものは, その不定形の項で, **III Wachsen** ㊦ **-s/** … という形で示した。名詞としての用法が十分に熟したと思われるものは見出し語にかかげた。

VI 格 支 配

- ① 格支配を明示するために, 前置詞は ㊦ の次に ㊦ **2 格支配** ㊦ **3 格支配** ㊦ **4 格支配** ㊦ **3・4 格支配** と付記し, 動詞・形容詞は ㊦, ㊦ の次に ㊦ **2 格とともに** ㊦ という形で記した。
- ② 訳解の用例では, 人を指す名詞の 2 格, 3 格, 4 格を **j², j³, j⁴** で, 事物・事柄を指す名詞の 2 格, 3 格, 4 格は **et², et³, et⁴** で示し, その訳語は, <人²>, <人³>, <人⁴>; <物²>, <物³>, <物⁴> または <事²>, <事³>, <事⁴> と記した。また再帰代名詞の 3 格, 4 格を **sich³, sich⁴** で示した。
- ③ 例句の中の, 冠詞その他の規定詞のない名詞, および規定詞があってもその格が必ずしもはつきりしないものには, その名詞の右肩に ², ³, ⁴ を付してその格を明示した。

VII 冠詞類・代名詞類 変化形 ⇒ 付録・文法表 II, III

- ① 冠詞・人称代名詞 は見出し語として 1 格形をかかげた。
- ② 所有代名詞・関係代名詞および大部分の指示代名詞は男性単数 1 格形をかかげた。
- ③ その他の代名詞は原則として原形を見出し語とした。
- 例: ① **der, die, das; ein, eine; ich, du, er, sie, es, wir, ihr**
 ② **mein, dein, ihr, unser; dieser, jener, jeder, derjenige, derselbe; welcher**
 ③ **solch; kein, manch,**

VIII 訳語・用例・その他

- ① 訳語の理解を助けるために, 必要に応じて 同意語 (= …), 反意語 (㊦ …), 参照指示 ⇒ … を示した。
- 例: **Kasse**… ② 現金 (= Bargeld)
Import… (㊦ Export)
säufst [] ㊦ **㊦** du **säufst** ⇒ saufen
- ② 訳解において見出し語の地位・機能を明示するために, 例句・例文中の見出し語に相当するもの(動詞はそれと結合する助動詞とともに)は斜体活字(イタリック)とした。
- 例: **helfen**… *Hilf* dir selbst, so *hilft* dir Gott. Die Arznei *hat* ihm *geholfen*.
- ③ 例文の時称・態・法などを明示するために例文の後に, ㊦ **現在完了** ㊦ (ただし sein 支配の例文のみ), ㊦ **過去・受動** ㊦, ㊦ **接 2・現在** ㊦, ㊦ **現在・状態受動** ㊦ などの註を付記した。
- ④ 見出し語と密接に結合して成句的に用いられる語, および特定の前置詞は, とくに注意を喚起するために太字で示した。

例: **Sache**...der **Sache nach** 実際は
sich auf j^{(et⁴) freuen} <人⁴(事⁴)>を楽しみにして[待って]いる

IX 記 号

- [] ① 発音の表記. ② 省略可能.

[] ① [英 …] 語原的に関連のある英語. ② [ʒʒ], [ʒʒ], [ʒʒ], [ʒʒ] のように起源がフランス語, スペイン語, イタリア語, ラテン語であることを示す.

[] ① 名詞の変化語尾中の省略可能. ② 音標文字中の省略可能.

() ① 訳語の補足的な説明. ② 部分的な言い換え. ③ 単数 2 格・複数などの別形.

『 』 文法的な注意・説明.

《 》 ① 概括的な意味上の分類. ② 略語.

| 分離動詞の分離線.

! ① 間投詞. ② 命令形.

ˊ, ˋ ˊ は第 1 アクセント, ˋ は第 2 アクセント.

/ 名詞の変化形・単数と複数との仕切り.

- 名詞の変化形を示すときの見出し語の全体.
- .. 名詞の変化形を示すときの見出し語の一部.

~ 再帰動詞を示すときの見出し語全体.

← 比喩的表現のもとの意味を示す.

⇒ 参照・指示の記号.

= 同意語.

≡ 複合語(見出し語)の接合点.

* ① 見出し語の前: 重要語. ② 動詞の右肩: 不規則(強変化・混合変化)動詞.

(*) 動詞の右肩: 強変化と弱変化とあることを示す.

* 見出し語の前: 最重要語.

• 発音の仮名表記のあいだの発音の切れ目.

『 』 用例が多いとき例句と例文の境目を示す.

I, II, III; A, B; ①, ②, ③; ④, ⑤, ⑥; a), b) 品詞の別, 用法の別, 語の意味の分類を示す.

つづりの分け方

必要によって単語を行の終りで切って次の行にまわす, その切り方にはおよそ下記のようなルールがある. しかし, 行末で切る場合には, 残っている部分でおおむねその語の全貌がとらえられることが必要であるから, O-fen, A-bend とか後半も Treu-e, mach-te という風に, ルールに合っていない, あまりつづり字が少ないのは好ましくない.

原則として, 単一語は語を構成する音節によって分け, 複合語はそれを構成する構成要素によって分ける. Mei-nung, Wel-ten, hei-ßen; Mein-eid, Welt-ende, Fest-essen.

I 本来のドイツ語

A) 単一語

- 2 個以上の音節から成る単一語は音節によって分ける. その際に,
- ① 多くの母音が連続する場合, 重母音 (aa, ee, oo, 長音の ie)・複母音 (ai, ei, au, eu, äu) 以外は分けられる. Feu-er, Trau-ung
- ② 単一の子音は次の音節につく. Waa-ge, Freu-de
- ③ その場合 **ch**, **sch**, **ß** は単一音とみなされ分けられない. po-chen, rau-schen, flei-ßig
- ④ 次のような子音群にあっては, その最後の子音だけが次の音節につく.
- | | | |
|-----|------------|-------------------------------------|
| nk | sin-ken | ただし, ng, dt は単一音ではあるがこれらと同様にあつかわれる. |
| pf | schimp-fen | ng Fin-ger |
| sp | Knos-pe | dt Städ-te |
| tz | trot-zen | |
| chs | Ach-sel | |

- ⑤ 特例 1. **ck** は **k-k** と分ける. backen → bak-ken, Zucker → Zuk-ker

特例 2. **st** は分けることができない. Ka-sten, We-sten, Kün-ste

B) 複合語

- ① 複合語はまずその構成要素に分ける. Diens-tag, Fenster-glas, her-ab, hin-ein
 ② 構成要素はさらに単一語として音節によって分ける. Fen-ster-glas, To-des-an-zei-ge
 ③ 派生語の前つづりは構成要素なみにあつかわれる. Auf-tritt, Be-suchs-tag, Ver-ein
 ④ 派生語の後つづりは単一語の音節なみにあつかわれる. lang-wei-lig, Neu-ig-keit
 ⑤ 長音を示す **h** で消失したものは分ける際にも復活しない. Ho(h)heit → Ho-heit, Ro(h)heit → Ro-heit
 ⑥ 同じ子音が 3 個連続し, 1 個が記されないものはつづりを分ける際に復活する. Schiffahrt → Schiff-fahrt, Bettuch → Bett-tuch
 (例外: Mit-tag, den-noch)

II 外来語

A) 単一語

大体ドイツ語の単一語の原則があてはまるが,

- ① 分けられない重母音・複母音が追加される.

ee Mee-ting **eu** Chau-feu-re
ea Beef-steak **oi** Toi-let-te

- ② 母音群が単一音を構成していなければ分けてよい. Ju-bi-lä-um, Petrole-um, na-iv
 ③ 単子音は次の音節へ; この場合 **ch, sch** の外に **ph, th, rh** も単子音とみなされる.

ch Epo-che **th** Diph-therie
sch Ha-schee **rh** Diar-rhõe
ph Ty-phus

- ④ 子音群の最後の子音は次の音節へ.

ただし, **st** のほか, 子音 **b, p, d, t, g, k** と **l, r** との結合したもの, および **gn** は分けられない.
 Ka-ste, Regi-ster; Ta-blette, Fa-brik, Ka-plan, Qua-drat Ma-trose, Emi-grant, Zy-klus; Si-gnal

B) 複合語

ドイツ語の場合と同じく, 語の構成要素によって分けることが望ましい. Inter-esse, Mikro-skop, So-wjet, Par-allele. しかし一般に外来語の構成要素を正確に知ることは困難なので, 構成要素にかわりなく音節による分け方が行なわれている. ab-strakt, ab-stinent, Tran-sit, Epi-sode.

発音表

この辞典ではドイツ語の発音をできるだけ適切な仮名表記で示すために次のような工夫をした。

- アクセント……その語の第一アクセントを太文字(ゴシック)で示す。なお、アクセントのある母音については適宜促音〔ッ〕を挿入した。
- 〔l〕音と〔r〕音……〔l〕音を〔ら〕行の平仮名で、〔r〕音を〔う〕行の片仮名で示す。
- 〔f〕音と〔h〕音……〔f〕音を〔ふぁ〕〔ふィ〕〔ふ〕〔ふェ〕〔ふォ〕〔ふュ〕で、〔h〕音を〔ハ〕行の片仮名で示す。
- 〔pf〕音……〔プッ〕で示す。
- 語末の〔ŋ〕音……〔グ〕で示す。
- 語末の〔r〕音……原則として〔ア〕で示す。

① 母音

音標 文字	仮名	発音表記の例	備考
a:	アー	Nase [ナ-ゼ ná:zə], Saal [ザ-る zá:l], sah [ザ-zá:]	
a	ア	an [アン án], lachen [らッヘン láxən]	
e:	エー	See [ゼ- zé:], Weg [ヴェ-ク vé:k], weh [ヴェ- vé:]	やや [i:] に近い
e	エ	Metall [メタル metál], Pedal [ペダー- pedá:l]	
e:	エー	Käse [ケー-ゼ ké:zə], Nähe [ネ-エ né:ə]	[e:] よりも口を開いた音
e	エ	kennen [ケンネン kénən], Text [テキスト tékst]	明瞭に発音される [エ]
a	エ	Gebirge [ギ-ベルゲ gə-bírgə], Tunnel [トウ-ンネン túnəl], Vater [ふ-アー-ター fá:tər], sagen [ザ-ゲンzá:gən]	アクセントをもたない弱く短い音、語尾の r の前では弱いア ([ア]) に近く、l, m, n の前では消えやすい音
i:	イー	Kino [キ-ノ kí:no], Bier [ビー-ア bí:r], ihm [イ-ム í:m]	明瞭に発音される [イー]
i	イ	Idee [イデー idé:], Bibliothek [ビブリオテ-ーク biblio-té:k], Lilie [リ-リエ lí:liə], Radio [ラー-ディオ rá:dió]	[i:] より短く音節を区切る、母音の前ではきわめて短い音
i	イ	Bild [ビ-ル ト bilt], Meier [マイ-ヤ má:ɪər], Pein [パイ-ン pá:n]	[i:] よりも口を開いた短い音
o:	オー	Brot [プロ-ト bró:t], Boot [ボ-ト bó:t], Sohn [ゾ-ン zó:n]	唇をまるめてはっきり発音される [オー]
o	オ	Politik [ポリテ-ーク polití:k]	[o:] よりも短くはっきり発音される [オ]
ɔ	オ	oft [オフト óft], Boston [ボストン bóstən]	[o:] よりも口を開いた短い音
ø:	エー	böse [ベ-ゼ bó:zə], Goethe [ゲー-テ gó:tə]	[o:] の口の形で [e:] と発音する
ø	エ	Ökonomie [エコノミ- økonómí:]	[オ] と [エ] の中間の音で、[ɔ] の口のかつこうで [エ] と発音する
œ	エ	Dörfer [デル-ファ dá:rfər], können [ケンネン kénən]	[ø:] よりも口を開いた短い音
u:	ウー	gut [グ-ト gú:t], Uhr [ウ-アー ú:r]	唇を十分まるめて発音する
u	ウ	Futur [ふトウ-ア futú:r]	アクセントをもたない
u	ウ	Gruppe [グルッペ grúpə], Neigung [ナイグン-ゲン ná:guŋ]	[u:] よりも口を開いた短い音
y:	ユー	Türe [テ-ュレ tý:rə], kühl [キ-ュ-ル ký:l], Lyrik [リ-ュ-リック lý:rík]	[u:] の口の形で [i:] と発音する
y	ユ	Dynamik [デュナ-ミック dyná:mík]	[y:] よりも短い音
y	ユ	dünn [デュン dýn], Symbol [ズ-ム-ム ボ-ー zým-bó:]	[y:] よりも口を開いた短い音

音標 文字	仮名	発 音 表 記 の 例	備 考
ā:	ア	Entree [アットレー ātré:], Nuance [ニュアーンセ nyá:sə]	フランス語系の鼻音, [a] を鼻にひびかせる
ē	エ	Point [ポエーン poē:], Terrain [テレーン téré:]	フランス語系の鼻音, [e] を鼻にひびかせる
ō	オ	Bonbon [ボンボン bōbō: または bōbō:], Chanson [シャンソン šāśō: または šāsō:]	フランス語系の鼻音, [o] [o] を鼻にひびかせる
æ	ア	Managemet [マニジメント mænɪdʒmənt]	英語系
ʌ	ア	Rugbi [ラグビ rʌgbɪ]	"

② 複 母 音

ai	アイ	Taifun [タイフン taifú:n], Geige [ガイゲ gáigə]	やや [アエ] に近い音
au	アオ	Auge [アオゲ áugə], Haus [ハオス háus]	[アオ] に近い
oy	オイ	euch [オイヒ óyç], träumen [トロイメン tróymən]	
oa	オア	Toilette [トアレツテ toalétə]	フランス語系

③ 子 音

p	プ	(パ, パア, ペ, ピ, ポ, プ, ピュ) Paar [パール pá:r], Schlepper [シュレッパァ šlépər], Pelz [ペルツ péłts], Pilz [ピルツ píłts], Post [ポスト póst], Plan [プラン plá:n], pünktlich [ピュンクトウリヒ pýŋktliç]	
b	ブ	(バ, バア, ベ, ビ, ボ, ブ, ビュ) Bad [バート bá:t], Leber [レ-バァ lé:bər], Berg [ベルク bérk], bis [ビス bís], Bock [ボック bók], Buch [ブーフ bú:x], Bürger [ビュルガー býrgər]	
t	ト	(タ, タア, テ, ティ, ト, トウ, テュ) Tat [タート tá:t], Vater [ファ-ター fá:tər], Thema [テーマ té:ma], Tisch [ティッシュ tíʃ], Tor [ト-ア tó:r], Bad [バート bá:t], Träne [トレ-ネ tré:nə], Trieb [トゥリープ trí:p], Tuch [トゥーフ tú:x], Tür [テュ-ア tý:r]	
d	ド	(ダ, ダア, デ, ディ, ド, ドウ, デュ, デイヤ) da [ダー dá:], jeder [イエ-ダァ jé:dər], Mode [モーデ mó:də], die [ディー dí:], drei [ドライ drái], Ordnung [オルドヌング órdnug], dritt [ドゥリット drít], Duft [ドゥフト dúft], dünn [デュン dýn], Madjar [マディヤール madjá:r]	
k	ク	(カ, カア, ケ, キ, コ, ク, キュ) Kakao [カカーオ kaká:o], Denker [デンカァ déŋkər], Kern [ケルン kérn], Kind [キント kínt], Koffer [コッフ ファ kófər], Knabe [クナーベ kná:bə], Küche [キュッヒエ kýçə]	
g	グ	(ガ, ガア, ゲ, ギ, ゴ, グ, ギュ) Gabe [ガーベ gá:bə], mager [マ-ガァ má:gər], gegen	

音標 文字	仮名	発 音 表 記 の 例	備 考
f	ふ	[ゲーゲン gé:gən], Gift [ギフト gift], Gold [ゴルト gólt], gut [グート gú:t], Güte [ギューテ gý:tə] (ふア, ふエ, ふイ, ふオ, ふ, ふユ) Fach [ファッハ fáx], Pulver [プるふア púlfər], Feld [ふエるト félt], Fieber [ふイーバァ fí:bər], Form [ふォ ルム fórm], frei [ふライ frái], für [ふューア fý:r]	上の前歯を下唇にあてて息をするどく 出す
v	ヴ	(ヴァ, ヴエ, ヴイ, ヴオ, ヴ, ヴユ) Vase [ヴァーゼ vá:zə], Weg [ヴェーク vé:k], Winter [ヴィンタァ vintər], Woche [ヴォッヘ vóxə], Wunder [ヴンダァ vúndər], Würde [ヴュルデ výrdə]	[f]の有声音, 上の前歯を下唇にあて て発音する
pf	プフ	(プファ, プフェ, プフィ, プフォ, プふ, プふユ) Pfand [プファント pfánt], Köpfe [ケップふエ kəpfə], Pfiß [プふイツふ pfif], Pfote [プふォーテ pfó:tə], Pfund [プふント pfúnt], Pfühl [プふューる pfý:l]	[p]と [f]を同時に発音する
s	ス	(サ, サァ, セ, スイ, ソ, ス, スユ) Passage [パサージェ pasá:ʒə], Wasser [ヴァッサー vásər], Gasse [ガッセ gásə], Essig [エッスイヒ ésiç], Professor [プロふェツツァ profésər], Gas [ガース gás], Psycholo- gie [プスュヒョウギー psyçologi:]	
z	ズ	(ザ, ザァ, ゼ, ズイ, ゾ, ズ, ズユ) Saal [ザーる zá:l], dieser [ディーザァ dí:zər], See [ゼー zé:], sie [ズイー zí:], Sohn [ゾーン zó:n], Suppe [ズッ ペ zúpə], Sünde [ズンデ zýndə]	
ts	ツ	(ツァ, ツエ, ツイ, ツオ, ツ, ツユ) Zahn [ツァーン tsá:n], Katze [カツツエ kátsə], Ziel [ツイ ーる tsí:l], Aktie [アクツイエ áktsiə], Zoll [ツォる tsól], Zug [ツーク tsú:k], Zügel [ツューゲる tsý:gəl]	
ʃ	シュ	(シャ, シャァ, シエ, シ, ショ, シュ) Schach [シャッハ jáx], Fischer [ふイッシャァ fíʃər], Scherz [シュルツ férts], Schicht [シットヒ fíçt], Schock [ショック fók], Schule [シュールé jú:lə]	唇をまるめて発音する
tʃ	チュ	(チャ, チャァ, チエ, チ, チュ) Tschaikowski [チャイコフスキ tʃaikófski], Deutscher [ドイチャァ dóyʃər], Tscheche [チェッヒエ tʃéçə], tschilpen [ちるベン tʃilpən], deutsch [ドイチュ dóyʃt]	
l	る	(ら, らァ, れ, り, ろ, る, りユ) Lage [らーゲ lá:gə], Maler [マーらァ má:lər], Leben [れーベン lé:bən], Liebe [りーべ lí:bə], Lob [ろープ ló:p], Luft [るふト lúft], Lüge [りゅうゲ lý:gə]	舌先を前歯の裏にあてて舌の側面から 息を出す
r	ル	(ラ, ラァ, レ, リ, ロ, ル, リユ) Rad [ラート rá:t], Führer [ふューラァ fý:rər], Rede [レーデ ré:də], Ring [リング rín], Roman [ロマン ro-	舌先またはのどひこを軽くふるわせる

略 語 表

I 文 法 的

男	男性名詞	男	略語
女	女性名詞	国 (h)	haben 支配の自動詞
中	中性名詞	国 (s)	sein 支配の自動詞
男・女	男性名詞あるいは女性名詞	国 (h, s)	haben または sein 支配の自動詞
縮小	縮小名詞	国 (s, h)	sein または haben 支配の自動詞
代	代名詞	他	他動詞
単	単数	再	再帰動詞
複	複数	非人称	非人称動詞, 非人称的用法
形	形容詞	過分	過去分詞
現分・形	現在分詞の形容詞化したもの	現在	現在形
過分・形	過去分詞の形容詞化したもの	過去	過去形
冠	冠詞	接1	接続法第1式
数	数詞	接2	接続法第2式
副	副詞	命令	命令形
前	前置詞	前つづり	前つづり
接	接続詞	後つづり	後つづり
間	間投詞	【分離】	分離動詞
反	反意語	【非分離】	非分離動詞
注	注解・注意		

II 一 般 的

ア ー オ	《カッタ》	カトリック
《医》	《気》	気象
《印》	《機》	機械
《映》	《戯》	戯語
《オース・方》	《ギ神》	ギリシア神話
《織》	《教》	教育学
《音声》	《魚》	魚類
	《漁》	漁業
	《空》	航空
カ ー コ	《軍》	軍事
《化》	《経》	経済[学]
《絵》	《芸》	芸術
《海》	《劇》	演劇
《貝》	《建》	建築
《楽》	《言》	言語学
《学生》	《古》	古語

《工》	工学	《電》	電気
《考》	考古学	《伝》	伝説
《鉦》	鉦物[学]	《登》	登山
《坑》	鉦山	《土》	土木
《昆》	虫類	《動》	動物[学]
《諺》	ことわざ		

ナーノ

サーソ

《史》	歴史[学]	《農》	農業
《詩》	詩語	《南独・方》	南ドイツ方言

ハーホ

《神》	神話	《美》	美術・美学
《社》	社会学	《比》	比喻
《写》	写真	《卑》	卑語
《狩》	狩猟	《物》	物理
《宗》	宗教[学]	《北独・方》	北ドイツ方言
《修》	修辞学	《文》	文法
《商》	商業	《方》	方言
《詩学》	詩学	《法》	法律[学]
《植》	植物[学]	《北神》	北欧神話
《心》	心理学		

マーモ

《数》	数学	《民族》	民族学
《スグ》	スポーツ, 運動, 体育	《民俗》	民俗学
《スイス・方》	スイス方言		
《政》	政治[学]		

ヤーヨ

《聖》	聖書	《治》	冶金
《生》	生物学	《薬》	薬学
《染》	染色	《郵》	郵便
《俗》	俗語		

タート

ラーロ

《体》	体操[競技]	《理》	理学一般
《地》	地[理]学	《略》	略語
《彫》	彫刻	《料》	料理
《鳥》	鳥類	《林》	林学(業)
《通》	無線, 通信	《倫》	倫理学
《哲》	哲学	《ロ神》	ローマ神話
《鉄》	鉄道	《論》	論理学
《天》	天文学		